

6 年 名前()

2024 年度 6 年生 津房小学校教育文化祭発表

お の ま も り も の が た り
小野真盛物語

発表者

- A お の ま も り 小野真盛 ()
- B お だ て こ れ た か 尾立惟孝 ()
- C ら ふ く せ い 羅福星 ()
- D ご と う し ん べ い 後藤新平 ()
- E 語学生 (1B・2C・3D)

発表者	発表内容	その他
	<場面 1>台湾総督府での後藤と尾立の会話	
後藤新平	私は、台湾総督府の後藤新平です。今から、130 年ほど前、日清戦争に勝った日本は、「台湾」を中国本国から、譲り受けることになりました。	日清戦争 台湾総督府
尾立惟孝	私は、尾立惟孝といいます。安心院町の津房の出身です。私も台湾総督府の人間として、これからの「台湾」の政治をどう進めるか、後藤さんとお話をしています。	
後藤新平	台湾を植民地にしたのだから、日本本国と同じ仕組みで民衆を動かしていけばよいという意見がありますが、私はこれには反対です。	
尾立惟孝	それはどういうことでしょうか？日本の仕組みで治めていけば、やがて台湾の人たちも日本人のようになるのではないですか？	
後藤新平	「ヒラメの目をタイの目にすることはできない」という言葉を知っていますか？尾立さん。	ヒラメ タイ
尾立惟孝	当たり前じゃあないですか。そんなことはできません。	
後藤新平	支配の仕組みも同じです。これまで、台湾の習慣とか制度は、その土地なりの理由があって生まれてきている。長い時間をかけてできあがった文化や制度をすべて作り替えてしまうことは、必ず問題が起こる。	
尾立惟孝	つまり、この台湾のこれまでの制度をよく研究した上でないと、いきなり新しい仕組みを取り入れると、人々が従わなくなるといことですね。	
後藤新平	そう、ヒラメは、海の中に横たわりながら、獲物を狙うから、頭の一方に 2 つの目が着いている。生き物にはそれなりの理由があるのだよ。これをタイのように両方に付ければ、一方は、砂の中を見ることになり、意味がない。	
尾立惟孝	よくわかりました。意味のないことをすれば、混乱してしまいますね。それでは、どうすればよいのでしょうか。	
後藤新平	そこでだ、私が考えていることを申し上げよう。あなたにきてもらったのは、そのためです。	
尾立惟孝	私も、日本の支配が、台湾全土に行き渡るために努力をしたいと思います。それで何をしろというのでしょうか？	
後藤新平	優秀な通訳を養成したい。それも、台湾の人々の文化や考	

	え方と日本の制度や仕組みをうまくつなぐことができる とびきり優秀な通訳だ。	
尾立惟孝	通訳ですか……。確かに台湾の言葉は、中国で話されて いる言葉とは大きく違います。福建省をはじめさまざまな 「音」が入り込み、しかも漢字も統一した基準がなく、人々 は、ほとんど文字を書く習慣がない。まさに「有音無字」 の状態です。台湾語の通訳は、至難の業です。	
後藤新平	だから、君を呼んだのだよ。君の故郷の津房では、とても 学問が盛んで、人々は高い教養を持つと聞いている。その 中でも、漢文の読み書きに優れた若者を是非、台湾に連れ てきて欲しいのだよ。	
尾立惟孝	確かに、私の故郷では、江戸時代から学問研究が盛んでし た。私塾「宝光學舎」では、日本外交史や四書を教えてい ます。私もその中で育ちましたが、みな優秀です。	
後藤新平	それなら、早速日本に戻り、優秀な若者を2、3人連れてき てくれ。もちろん、ただ中国語を訳せばいいのではない。 文学や歴史にも才能がなければならない。しかし、いちば んは「向学心」だよ。	
尾立惟孝	わかりました。早速日本に戻り、優秀な若者を探して参り ます。是非とも台湾と日本の「架け橋」になれるような者 を推挙いたします。	
★★ ＜場面2＞後藤新平と小野真盛の出会い		<幕間>
後藤新平	入りたまえ。	
小野真盛	失礼します。私が、尾立惟孝先生より後推挙いただきまし た小野真盛と申します。	台湾の地図
後藤新平	待っていたよ。真盛君。日本からの旅は、どうだったかい？ 初めての船旅だと聞いたが……	
小野真盛	はい、大分を出るのも初めてでしたが、東シナ海は大揺れ でした。今もクラクラしています。	
後藤新平	それで、君はとても優秀だと聞いているが……。まあ、 「ヒラメの目をタイにすることはできない」話は知ってい るかね。	
小野真盛	社会の習慣や制度は長い年月をかけてできあがったもの	

	だから、無理に変更すれば大きな反発を招く。それで、よく相手を知り、状況に合わせた政治を行うことが大切だということです。	
後藤新平	さすが、尾立君の推薦した人物だ。物事をよくわかっている。この台湾を日本がきちんと支配していくためには、まずは、台湾の人たちのことをよく知らなければならないということだ。	
小野真盛	私は、故郷である津房で、四書を通して、漢文の読み書きを学んできました。10歳で私の生まれた耶馬溪を後にし、母の実家である津房で15歳までひたすら学問に励んで参りました。きっとお役に立てると思います。	小野真盛看板
後藤新平	ほう、それは頼もしい。どんな風に勉強をしていたんだい？	
小野真盛	それは、ノートを手放さず、何でも書き留め、決しておろそかにしませんでした。台湾語もそうやってじっくり習得したいと思います。	
後藤新平	台湾語は、漢文とは違い、これといった決まりが無いように思える。もちろん私の感覚だがね。	
小野真盛	そうであれば、台湾の人の住んでいるところで、寝泊まりし、食事を共にしながら、勉強していきたいと考えています。常に台湾の人々と一緒にいれば、ものの考え方や感じ方がよくわかるようになるだけで無く、言葉も早くマスターできると思います	
後藤新平	是非そうしてもらいたい。台湾語の辞典や語学を勉強するための参考書は無いのだから、現場で「生」の台湾語をしっかり学んで欲しい。	
小野真盛	わかりました。死ぬ覚悟をもって行えば、何事も恐れることはありません。ところで、私は台湾語をマスターしてどんなことをすればよいのでしょうか？	
後藤新平	そうだったね。それを先に伝えていなければならなかった。君の仕事の内容は、「法院通訳」という仕事だ。台湾が日本の植民地になったことで、法律は日本が適用されることになる。	
小野真盛	台湾は、清国が統治していましたからね。清国は、皇帝の治める国でした。	
後藤新平	だからこれまで、台湾には、法律といったものが無かった。	

	とは、あなたのことですよね。	
羅福星	その通りです。あなたの台湾語は、台湾の人たちがしゃべっているのと変わりませんね。それでは、清国から見捨てられた台湾の人々の気持ちが分かりますか？	
小野真盛	確かに、台湾は、日本の支配下に入りました。しかしながら、私はすべて日本風にすることは反対です。	
羅福星	あなたは、日本人なのに台湾の人々の味方をするというのですか？	
小野真盛	人権が大切なのです。罪を犯して逮捕されたり、裁判をしたりする時にきちんと台湾語を訳せる人がいなければ、台湾の人たちの人権を守ることができません。	
羅福星	あなたは台湾の立場をきちんと理解していらっしゃる。それならば、私がなぜ、描栗事件を起こしたのかをお話ししましょう。	
小野真盛	あなたの言葉を、一言一句、正確に日本語に訳し、書きます。これを、後の世のための記録として残しましょう。	
羅福星	分かりました。それでは、なぜ、描栗事件を起こしたかについてお話しします。私は、インドネシアで生まれ、その後、先祖の土地である台湾に移りました。	
小野真盛	日本が支配している中で、台湾の独立に賛成する人たちを何人ぐらい集めたのですか？	
羅福星	500 人ぐらいだと思います。みんなで、日本の植民地になることを認めず、自由で民主的な台湾を作ることを議論してきました。	
小野真盛	そこで、反乱をしようということになったのですね。台湾の人たちの気持ちを考えず、日本の支配を進めていくことには無理があります。だからこそ、私たち通訳官が日本と台湾の人の間に入る必要があるのです。	
羅福星	でも、政治家は、通訳は通訳としか見ていませんよね。台湾総督府での地位も高くない。	
小野真盛	私は、地位にこだわっているわけではありません。台湾の人たちと日本人の「架け橋」になりたいのです。	
羅福星	あなたのような人に出会えて、日本人の印象が大きく変わりました。私の言葉をきちんと通訳して、日本の政治家に伝えてください。	
小野真盛	分かりました。あなたは台湾のために闘いました。その闘	

小野真盛	いや、まだまだあるぞ。四つ、文字で書かれたこともすべて正しく漢文にすること。五つ、台湾語できちんと作文ができること。六つ、台湾の人々の様子をよく理解しなければならないこと。以上のことは『語苑』にも書いているからよく読んでおきなさい。	
語学生 2	先生、街のポスターをご覧になって、抗議をなされたと聞きましたが？	
小野真盛	あのポスターを見て、台湾の人の心に響くと思うかね？例えば、今では分かりづらい文字がある。語句が整っていない。日本語のような表現がある。うまく表現できていないなど、はなはだ、幼稚な表現だったポスターのことだね。	
語学生 3	先生は、どうされたのですか？	
小野真盛	「実に風格がない」と言って、私が訳した漢文も付けて、文章を送ってあげたよ。これからは、十分よく考えて文章を作って欲しいという手紙も付けた。ここにあるから、見てごらん。	ポスター訂 正文 p 254
語学生 1	なるほど、四文字にした方が、語呂がよく、表現が整っています。	
語学生 2	この訳文なら、いいたいことがよく伝わります。	
語学生 3	台湾語らしくていい感じがします。	
語学生 1	しゃべっても、リズムがいいですね。	
語学生 2	美しさと風格が出てきました。	
語学生 3	文字にしてみると、音と漢字が整然としています。	
一同	さすが先生です。	
語学生 1	私たちも『語苑』を使ってしっかり学びます。	
語学生 2	『語苑』は、漢字と発音、日本語が上下に並んでいて、とてもわかりやすい。	
語学生 3	値段も手頃なのがいいです。	『語苑』
小野真盛	通訳は、即座にやらなければ効果がない。台湾の人々のことをしっかり理解した上で、正しく意味が伝わるようしっかり努力してください。	
一同	はい。分かりました。	
小野真盛	すべての学業も仕事も一生を通じて研究、工夫を怠ってはいけない。一生を通じて大準備しなさい。その前に、事前準備もしっかりする。とにかくよく考え準備するのだ。よし、今日の授業はここまで。	

語学生 2	起立・敬礼・別れ	
	★★ <場面 5>台湾との別れ、そして苦悩	<幕間>
惟孝の霊	小野真盛君、小野真盛君、起きるのだ。	
小野真盛	あなたは、尾立さん。でも、もう亡くなったのでは…？	(小野真盛
惟孝の霊	ああ、しかし一大事が起きたからな。君にアドバイスをするために、ここに来た。	が寝ている
小野真盛	何ですか？どうしたのですか？	ところへ)
惟孝の霊	君も知っての通り、日本は、ポツダム宣言を受け入れ、戦争に負けた。やがてこの台湾も再び中国のものとなる。	
小野真盛	分かっています。だからこそ、新しい台湾のために通訳として残ろうと決めたところです。	
惟孝の霊	それはできない。君は台湾総督府の高等官だ。つまり、台湾を支配した日本の手先ということになる。	
小野真盛	そんな。わたしは、通訳として台湾の人たちと日本人たちの「架け橋」の仕事を一生懸命してきました。	
惟孝の霊	ところが、それが問題なのだ。君の心は分かるが、形の上では台湾総督府の人間として、支配をしたことになる。	
小野真盛	いえ、台湾の人たちの人権を守ってきました。そして、新しい台湾のために働きたいのです。	
惟孝の霊	連合国にとって、そんなことは関係ない。君は、戦争犯罪人として裁かれるかもしれんのだ。一刻も早く、台湾から日本に戻らなければならない。	
小野真盛	私がしてきたことが、犯罪なのですか？何のために夜寝る時間を削り、台湾の人々の生活に溶け込み、気持ちを理解しよう努力してきただけなのですよ。	
惟孝の霊	君が、台湾のために努力をしてきたことは、君を推薦した私がいちばんよく分かっている。後の世の中が、必ず君を評価してくれるはずだ。それを待とうではないか。	
小野真盛	残念です。とても残念です。そしてとても悔しいです。	
惟孝の霊	今後は、君の妻、タズさん、娘の淑子(よしこ)と寧子(やすこ)、長男道光(みちてる)の家族で、ゆっくり日本で過ごしなさい。	
小野真盛	分かりました。早速、準備をいたします。	